





英國汽船乗員全部を救助

宮中新年宴會

護隊二箇師團組織され二十八日露都に到着したり(哈爾濱電報)

駐蹕支那公使劉鏡人氏より本國外交部に對し露獨單獨講和成立せば

獨逸は西伯利の獨逸俘虜を以て新軍を編成し滿洲より侵

元仁川觀測所長理學博士和田  
仕し南洋にて計畫し居れる椰子油

治氏は五日午後十時四十分大學病  
完て肺炎の爲め逝去せり（東京）

宿中の大谷光瑞帥は五日別府へ向圖計一千餘萬圓に達したり(特電)

邦貨に對する新施設

打切扱貨物の收容に充て一般荷

陽線輸送力も亦前年に比し多少の主各位の利用に供する幾種

章 畫伯試筆

二萬九千五百兩あり之が一

伊分關釜田船舶及び山陽線の輸送

力に侔<sup>なり</sup>あり而かも運<sup>は</sup>緯<sup>を</sup>船<sup>も</sup>船<sup>も</sup>腹<sup>も</sup>亦依然として不充<sup>ふちゅう</sup>分<sup>ぶん</sup>

*[Faint vertical text visible through the paper]*

東羊 而昌支一龍の件ニ繁々通  
日鼓後ノ講義ニノ行ニ

一、居内一體者僧かち中思ひ互ひ都て思ひ立たす十年の同じ

**THE**

[illegible]

高尾副官武内中佐は軍隊狀況の爲め六日出發大田大郎及

網子、椅子上等戲番を演じ署長の訓示あり正午閉式其れより

全員霜山消防隊を高唱しつつ、府内各町を練り廻り、午後二時より群山

火災に際し、群馬消防組の活動機敏  
 三十一日、擁護群馬三極精米所の  
 土はいやある管だと其後、大分、居た。

にして他に延焼を免がれたるに因

百二十回、澤田精米所金百圓等の爲に集金して三千圓位集つた△之れは博

寄贈ありたり 組合招宴 群山米  
穀商組合にては四月午後五時より

野府尹來賓側を代表して謝辭を述べ、其の由を多岐に亘り、二年東渡に逢つた人に語つて居たさか▲海に制

飲を盡して閉會したるは午後十一

露國講和條件拒絶の結果

帝國の獨逸和條件拒絕は遂に露

● 皇國庶民詔書  
激派の爲め

クロンスタットに護送

時參議院の制定せる新選舉法に依る新國會を召集す可く電請せり  
 呂錕氏等十六省の督軍は連名して舊國會恢復に斷然反對なれば臨

○兵曹次約

三 志平品次郎、井上策進、木谷かれ、井上四

五日午前入港さくら丸一二等客一  
(一等六名) 藤本晚雄外家族四名、加藤萬四

三、三、三、三 三、三、三

100

[illegible]











附錄

九 九

韓相龍

初旅

古賀祐雄

[illegible]

四十四萬三千九百二十二圓にして、我々新生絲業平糶會の輸出に極  
貸出金四百三十三萬六千九百圓なの壓迫を受ける如き事態の發生  
り之れを前年同期に比すれば預金  
に於て一百三十八萬六千七百三十三圓に過ぎざるべし  
六圓を増し貸出金に於て一百十五圓に直接需關係の輸出品は始  
萬五千五百十二圓を増せり之れが別として、蘇米向一般輸出品は多

に及ばず貨を現送して不均衡なる收支の出合を付ける由つて以て急遽に輸出に於ける形勢となりて悉くや米穀の全輸出ありて此の最後手段すら國幣を缺くの状態となり輸出爲替は一層の窮乏を感じ來れるが如る點より我が對外貿易の前途を案すれば當然輸出の制限となり輸入の増進となりて再び通關に同すべき際なきにあらざる雖も幸甚に於て時局の革命は世界の經濟組織を根本的に顛覆し各國互に自給主義を擧げて露國封鎖を敢行し又國際分業を容さざるの點なるに至り必らずしも常理を以て大勢を支配するを得ざる狀況となり一輸出に轉位したる我が國際貿易は依然として輸出は輸入を越へ商賈の擧げ大に作て總額も亦増加するの前途に在り而して我が輸出貿易は當分現在の前進歩調を繼續するものと見て大過なかるべきなり（莊龍峯著）

最留意すべきは對外爲替

内相は、現時以來我が對外貿易の基礎的状態を異格の盛衰を示しつつあるが權限上輸出貿易の急進的增加は（甲）軍用品需要増加による特殊品の輸出（乙）交戦國及び中立國に對する補完品の輸出（丙）歐洲品の供給杜絶による代替品の賣行増加（丁）米穀市場の食料氣に伴ひ生發其他の原料品並に化粧品衣料品裝飾品等俄然輸出を増加せる等先づ其の主たる原因に歸すべきが其中（丙）來悉く倫敦に於て決着せられ、現に特別關稅協定の中止勢力最も密接の關係あり歐洲品の輸入（丁）とは輸出貿易將來の盛衰と各國の自給主義と經濟的封鎖帝國貿易前途は前途懸念

<p>明治卅九年創業電話長崎一八〇</p> <p>株券現地公債上州屋本店</p>	<p>大坂市日本橋北詰東入大町町</p> <p>諸公債株券寶込速取</p>	<p>恩給年金長利立替</p> <p>謹賀新年</p>	<p>京極永樂町二丁目</p> <p>京染 九 五</p> <p>電話一八九六番</p>
--	---------------------------------------	-----------------------------	--

# 新華日報

世界各國弱點の究明

資力（運用） 日本（田中）  
 情のイスパニヤ民族（田中）  
 土耳古衰滅の因（田中）  
 列國の軍事的觀察（田中）  
 平時戰時に於ける英國（田中）  
 農村萎靡の英吉利（田中）  
 英國の社會陰陽（田中）  
 習慣に任せる英國（田中）  
 中世紀的イギリス（田中）  
 人口の減少と佛國の恐怖（田中）  
 變形的な佛蘭西國民（田中）  
 大戰とフランスの地位（田中）  
 近佛蘭西思想の病弊（田中）  
 個人を閉却する獨逸（田中）  
 武力至高主義の獨逸（田中）  
 蠻風野臭の獨逸人（田中）  
 領土に飢えるドイツ（田中）  
 創造力乏し獨逸藝術（田中）  
 獨逸の本解剖（田中）  
 羅シア人の極端性（田中）  
 富裕なる獨逸國和蘭（田中）  
 朝變暮改の墨西哥人（田中）  
 人口稀薄の伯刺西爾（田中）  
 英獨の海軍長短（田中）  
 腐蝕の奧大利洪牙利（田中）  
 基礎薄弱なる奧匈國家（田中）  
 薄倖なる奧匈國家（田中）  
 雪に咲く瑞諾文明（田中）  
 巴爾幹の歐洲禍根（田中）

諸國民の社會思想  
心核に於ける日本國民思想  
老境の日本文明と我國民思想  
我國の弱點とは何か  
非國家本位の我商工界  
無理解無理想の日本人  
無理解無理想の日本人  
日本の自我喪失病  
戰戰的なる日本人  
好戰的なる日本人  
思想界の現状と救済  
思想界の現状と救済

支那實業失敗原因  
支那人の眼中國家なし  
新支建設の障礙  
反省力ある支那人なり  
支那新人の自省を促す  
支那新人の自省を促す

小人閑居の伊和島  
事大主義のイタリイ  
天惠に呪はれたる伊太利  
天惠に呪はれたる伊太利

歐米社會の弱點  
歐米社會の弱點  
歐米社會の弱點  
歐米社會の弱點

米國劇の藝術味  
空漠な米國の思想界  
米國工業界の假瑾  
アメリカの社會的缺陷  
米國の文明暴露  
教訓的亞米利加の弱點  
不統一不融合のロシア  
愚鈍な露西亞の民衆  
非國家的露西亞人  
露西亞革命の煩累

支那實業失敗原因  
支那人の眼中國家なし  
新支建設の障礙  
反省力ある支那人なり  
支那新人の自省を促す  
支那新人の自省を促す

小人閑居の伊和島  
事大主義のイタリイ  
天惠に呪はれたる伊太利  
天惠に呪はれたる伊太利

歐米社會の弱點  
歐米社會の弱點  
歐米社會の弱點  
歐米社會の弱點


米國劇の藝術味  
空漠な米國の思想界  
米國工業界の假瑾  
アメリカの社會的缺陷  
米國の文明暴露  
教訓的亞米利加の弱點  
不統一不融合のロシア  
愚鈍な露西亞の民衆  
非國家的露西亞人  
露西亞革命の煩累

正 賀

御廻禮の  
ハツキにお身まわりにハンカチに

金麝香水

めでたし









誰もが経験するやうに、  
年に際して受取る年賀状の由

彼の名は「某」、其本名を告げた所、讀者には何の興味もないから愛には省よくとした。要するに私が勤めてゐる園藝場に事務員として半年ばかり勤めた男であつて彼が此の半年間に寫した足跡を年賀狀によつて私は想ひ起したのである。

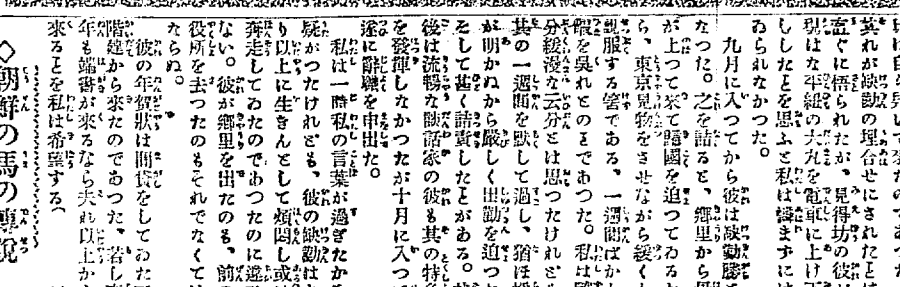
彼が初めて私の家を訪れたのは去年の二月末であつた、外套を温く／＼と着た三十三歳の男で一匹しの事務員として恥かしからぬ風采をしてゐた。私は其時彼を待設けてゐる給料が彼の身の周圍から要求する半ばにも達しまいと危ぶんだ、或は彼を紹介した私の友人に數字の誤解があるのではある

赤星農場飼養の馬

【上右：アフリカ種、牡、九歳、宇治市立馬場（中）ホーバ（アラブ種）、五歳、牝、二ツ子（下左）ウマノハヤシ（下右）黒鹿（オーストラリア種）】



九月に入つてから彼は疾動脚なつた。之を詰ると、郷里から上がつて來て歸國を追つてゐる、東京兒物をさせながら緩く型服する筈である、一週間はか假を呉れどのもであつた。私は分級證を云ふとは思つたけれど其の一週間を歇して過し、猶ほが明かねから厳しく出動を追つそして甚く誹責したことがある。



彼は出勤の最初の日私の家を訪れた時カステラの折を持って来るのを忘れたかった。私はこんな場合を多く経験しないから、彼が今受けやうとする待遇と此の意圖との間に平均を失なつてゐるまいかとさへ思つた、けれども其の意圖を取つた時中身が推想より狡猾で且つ日増しのボロ／＼のものであつたを察見して、半ば安心して同時に世故に嘲れた彼を思つた。

彼は先の失つた靴で粗野な降を踏みこんでいて、廊下場に出かけた、事務員や園丁に至るまで優つて挨拶をした。そして事務の権限を明かに聞かうとした。又机の上から彼の靴の跡しを流暢ならしむるものと云つて金を持って来るとさへあつた。

靴の光りは箱や減じて行くけれども聞服から夏服と其時々に彼は事を缺がなかつた。郊外の園藝場には服装の美は少し必要はなかつたけれども、彼は何時も容姿を崩さうとしなかつた。其の住居の電車中に必要なのと自宅の出入に隣人に見らるゝ恐れとが原因の一つには違ひないけれども、其より東京に出てゐると云ふ自からの誇りを斯うして徴象するものが大なる原因にしかつた。

けれども彼は噴火山上に踏舞する浮かりものでは無かつた、石橋から其の費用に心配はかけまいと惜してゐます、それで家賃を半減されてゐる。それから近所を得たる自宅内職で家内が私の給料の殆んど半分だけを舉げてゐます、それで私の車賃は假ふて餘りがあるんですと云ふのであつた。私は之に反對するものが出来なかつた。又七月に入つてからであつた、此の娯樂が一寸此の季節に閑散になつたから誰れ云ふとなく一日を面白く遊ばふといふと玉川に鯉漁の際が持上つた。彼に計ると彼は二も二なつたに反對した。それは今の自分の境界にして其の余餘けがなないことであつたので。私は謝るれりといふ意味からさういふ靴を付けたさうだ。

○忠義馬場  
或人が平常自分馬に乗つて夜の山路を往つた。酔を越ねると道の中から盗人がはれて其人を殺して金品を取つて逃げる。すると其馬は踏を追ひ逃げた。そこでその盗人を隠し、自分馬でその腹を押しへて人の來るの待つてゐた人が來てその盗人縛るのを見て始めて放してやつた。自分も主人の死場に向つて死んだ。

○果下馬  
昔し朝鮮馬の事あり。果下馬と云つたがそれは朝鮮馬のあまり小さくて果樹の下でも能く通る。それで果樹からさういふ

前狂言 乃狂言也。此等狂言

切狂言  
新曲釣友(原作)  
電話 二六三六 黃金鐘

五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

[illegible]

浪花

新春第一

大寫提供  
金時金大

新派 戀の 少年 今年

夜より  
 大正  
 館

**勸業博覽會**

電報局上五九七番(下)二〇五  
日曜祭日東京三國開鑿金貨博覽會開張勞働  
十一月日より一月五日迄係有特別大興行  
より第二回午後三時より第三回午後七時  
ヨリ第二回ナシサレバ止ル 佐久良狂風記

[illegible]

神に活かせぬ  
 早死せしめ  
 力な合はぬ  
 山に野に早に  
 底の寶庫

本町  
 五丁目  
 花合市川  
 節身圓之  
 展振芝湖  
 居一座  
 稻荷座

忠臣就 程鹿比計平  
 (世に上使の役)  
 大正 井町  
 八之三  
 大正

[illegible]

萬の手中に於て其犬狗と違ひて行方一  
心せしむる業を計り少く辭官へ待たば惡は  
いと多くなり少時の監禁を行ふの過憂とな  
るものなり少々の火はクレイトの家を包み刻々  
合謀する狂人は誰れの如く進出しぬる男少  
し其活端を知りて此の一念

全四卷

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

見ヘテ  
ズバトキ  
ズバクマ  
井上博  
シ

精々「不潔い布や  
頭を摩るのは目の  
病に悪いから、目ト  
薬には使わない布  
ト薬」

布  
ト薬

メ  
グ  
ス  
リ  
ト  
薬

下脚の様な刺激の  
眼器を添へてある  
全付合調五あり  
Q 点眼器  
小箱十粒  
東京 大塚 山田安民藥房  
安民藥房白濁速治膏附す  
局方長期月試贈を乞

洋關人高明帶社中込大前達早  
 通元大敵西區市國町東亞西產社

山縣五十雄 村上隆吉共著  
 道の道しるべ 第五卷  
 第五卷 第五卷  
 第五卷 第五卷

た  
ん  
せ  
き  
の

苦しみを切る！

たんせきは  
餘病に變ぜぬ内

たんせき、ぜんそくの専門薬として  
 最も有名な良薬、龍角散の服用が最大急務です

りうかくさん

龍角散

数年たん咳ぜん息  
 龍角散の特長  
 香味爽かにて服みやすく、薬嫌ひの人、小兒の  
 たんせきにも適當し、少量ついで効果著しく、服  
 用後スグに痰を切り咳を鎮め息切れを止む。  
 龍角散二瓶分を讀みよ其  
 非凡な効力を認められます

龍角散リウカクサンである偉効ヒキヤク病名（通称）

能<sup>レ</sup>効<sup>カ</sup>  
 ▲たんは氣を帯び時々血の交る人  
 ▲百日ぜき又はばしかぜきの小兒  
 ▲舌燥のかれ又喉嚨のいたむ人  
 ▲常に音聲を使ふに肺病あれば咽  
 喉を滑らかにするのを細く附

定 二月分 二十錢 二週分 三十錢 一月分 廿五錢  
 全園客店にあり 水戸へ行く文は 本舖 藥劑師 藤井得三郎  
 用に附上候 手代 東中市神岡坂等處 探取第九二 電話時田三〇六

勸業債賣出  
新刊月報法  
關西信託月報社  
政學館發行

帝國醫科大學  
分析科百圓是也  
に物に

[illegible]

中江物と云ふは、人  
あり其地産物なり。其方は  
大阪有田。其地産物なり。

南大門外大寺町  
臺町三丁目

母かの子儀  
病氣之虚癆  
不相叶三十日  
午前四時九十

歲の高齡にて死去致候此致書面通知を省略し紙上を以て謹告仕候也尚乍勝手供物香資等御贈與

御斷申上候  
大坂府下泉州濱寺  
男  
本山彦一  
孫  
同  
貞雄  
親族嫡代  
入原房之助

高口林太郎



お化粧  
の順序

美容品の

新粧に

クレンジング  
白粉

クレンジング  
洗粉

クレンジング  
クリーム

クレンジング  
白粉

一番高尚で美しい艶の出るクレンジング白粉のお化粧ならはドンナ晴れの場所でも肩身が廣うございます。東京大阪連の奥様やお嬢様の初化粧は大概皆クレンジング白粉でなす。 (お化粧の順序は右の通り)

お化粧  
の仕方

【第一に】

【第二に】

【第三に】

【第一に】 化粧は必ず清潔な顔にのみ施す。クレンジング洗粉で顔の脂を洗い、水でよくすすぎ、アレル化粧用のお化粧下クレンジング美容クリームを顔から顔へかけて塗り、指先で軽く押込んでから蒸タオルで軽く拭き取り、(或はクレンジングの代りに、皮膚の美を養ふクレンジングゼリーを顔から顔へかけて塗る)。

【第二に】 化粧用で美しい顔の出るクレンジング白粉を、掌に取り、指先で軽く塗りつけ、(顔は指先で塗り、指先で塗る。仕舞は指先で白粉を塗り、水垢も白粉を塗り、蒸タオルで拭いて白粉を落す)。

【第三に】 お化粧は、お化粧の順序に従って、クレンジング洗粉を顔の目の下から顔へかけて塗り、お化粧を一段と引いてからクレンジング美容クリームを顔につけて顔に塗り、指先で軽く塗り、指先で塗る。お化粧を合せて顔の上を、セーム革で軽く打って拭き、高貴で美しい淑女式のお化粧が出来上がるのでございます。 (東京でも、大阪でも、良家の奥様やお嬢様の化粧は、大概おクレンジング式お化粧にまぎって居ります。)

美人

クレンジング  
白粉

クレンジング  
白粉